

平成27年度 学校評価結果

※ 評価シート

分野	評価内容	評価平均	取組への意見等	取組の成果／改善の方策
<p>1 学校教育目標</p> <p><b>「自信と勇気をもって未来に挑戦する子どもの育成」</b></p> <p>障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導と必要な支援を充実し、その能力や可能性を最大限に伸ばし将来の自立と社会参加に向け自信と様々な困難に立ち向かう勇気を培う。</p> <p>その実現に向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障害による様々な困難を主体的に改善、克服する力の育成</li> <li>○ 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成等「生きる力」の育成</li> <li>○ 夢や希望の実現に向け主体的に努力する意欲と態度の育成</li> <li>○ キャリア教育を推進し、将来の社会参加や自立に必要な態度と能力の育成</li> </ul>				
<p>2 重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の多様な教育的ニーズに応じた教育を推進する。</li> <li>○豊かな社会性と人間性を育むため、交流及び共同学習を計画的・継続的に推進する。</li> <li>○幼稚部から中学部まで系統的・継続的な体験学習を充実させ、学び成長する意欲と将来への希望を抱く教育を推進する。</li> <li>○自他の人権を尊重し人との関わりの中で他を思いやり感謝する心を育む人権教育と、人としてより良く生きるための道徳教育を充実させる。</li> <li>○様々な自然災害から生命を守り、主体的に行動する力を育むための防災・安全教育を充実させる</li> <li>○地域の特別支援教育のセンター的機能及び「但馬地区特別支援学校ネットワーク会議」の一層の充実を図る。</li> <li>○教職員の協働体制を確立するとともに、教職員としての資質と実践的指導力の向上に努める。</li> <li>○家庭・地域との積極的な連携を行い、開かれた学校づくりを推進し、信頼される学校づくりを行う。</li> <li>○教職員の勤務の適正化に取り組み、すべての教職員が子ども一人一人に向き合える環境づくりを進める。</li> </ul>				
<p>3 自己評価 (4…よくできた 3…できた 2…あまりできなかった 1…できなかった)</p>				
総務部	<p>学校行事や儀式的行事を充実させる。</p> <p>地域や学校交流を通して地域と連携した活動を推進し、本校の理解啓発を図る。</p>	3.4 3.3	<p>総務が中心となりニコニコ祭りに取り組むことによって、本校の地域の交流行事の一つとして全体に浸透した。また地域の高等学校との交流も増え、本校の理解啓発につながった。但馬特別支援学校PTA交流会、近畿PTAでは保護者と連携した活動ができた。行事や交流を通じて地域の方々とつながりを感じる事ができた。オープンスクールでは日程を大きく2つに分けるなど3日間の内容が同じにならないように工夫した。1 オープンスクールなど受付と不審者対策が課題。2 総務部の負担が大きいと思う、もう少し他の部の協力・分担を考える。3 始業式や終業式が時間的に長くなっていく。4 ニコニコ祭りなど行事時の手話通訳者の配置を予算化検討。5 毎月変わる校門掲示板はより啓発になっている(掲示板修繕を検討必要)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1 オープンスクールの不審者対応については、受付窓口を1本化し、来校者には必ず名札を下げてもらおう。</li> <li>●2 儀式的行事は、時間内に終わるように内容の精選を図る。</li> <li>●4 手話通訳者の配置や掲示板の修繕は、事務室に依頼する。</li> </ul>
教務部	<p>個別の指導計画を活用し、保護者と共に共通理解を図る。</p> <p>幼児・児童・生徒の実態に配慮した指導計画の作成に努める。</p>	3.2 3.4	<p>聴知併置化に向けて教育課程の編成を推進した。成績提出にあたり、教師の読み合わせ期間を設定してもらいありがたい。5月に懇談を行うことで保護者のニーズを把握でき、子どものことを知る事ができ、それを踏まえうえて指導計画を作成することができている。個別の支援計画を通して共通理解を進めている。1 今後は、本人保護者と共に指導計画を作成するという意識を持って進めることが必要であると思われる。2 指導計画の自立活動部門についての検討を進める必要があると思う(特に聴覚部門)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1 保護者の思いをチームで受け取り個別の指導計画に反映するために、教師の事前の相談時間を確保する。</li> <li>●2 個別懇談のときに、保護者と教師の意見交換を充実させる。</li> <li>●3 自立活動部門の検討については、学部長会で検討を依頼する。</li> </ul>
生徒指導部	<p>学校行事や朝会などで幼児児童生徒が主体的に活動できるような場の設定を行う。</p> <p>安全指導の際、寸劇や視覚教材を用いるなど、分かりやすい指導方法を工夫する。</p>	3.5 3.6	<p>学校行事で子どもたちが活躍する場面が増えてきている。朝会、避難訓練、運動会等で、常に視覚教材を使いわかる内容に心がけていた。指導の際、内容を絞って提示し、手話も分かり易く子どもたちに伝わりよく内容を覚えている。朝会や終業式での分かり易い発信がとても良いと思う、子どもも聞く態度の良さが評価でき、これからも続けてほしい。長期休業前の生活の約束は分かり易く、子どもたちもよく内容を覚えている。プール開きの時の寸劇はとも分り易く、面白く、生徒たちの集中もよく続いてよかった朝会などでは行事等に合わせたゲームや寸劇があり、子どもたちは行事等について知りことができたとと思う。寸劇の○×が、メダルで首にかける方法になり分かり易かった。</p>	<p>○朝会では子どもたちが司会や目標の発表をしたり、前に出て歌ったりと主体的に活動する場が増えてきた。今後は学部長からの発表など子どもたちから発信できるような場を増やせるように工夫や改善をしていく。</p> <p>○寸劇をしたり、視覚教材を工夫・改良したりすることで、子どもたちが興味を持って集中して見るなど分りやすく伝えることができた。</p> <p>○長期休業前の生活の約束は、内容が同じ事が多い。繰り返し行うことで理解、定着をはかるというメリットを考慮に入れながら、新しいことを混ぜるなど内容の検討を行っていく。</p>
研修部	<p>研究テーマに応じた授業研究を行い、授業改善に向けて協議する。</p> <p>聴覚障害に関する研修会を実施する。</p>	3.5 3.4	<p>本校教員が分科会を企画運営することで、自らのスキルアップにつなげることができた。一人一人が研究したり授業を見直す機会を与えてもらっている。出張報告会等で一人が知り得た内容を他の職員に伝えた。どの学部もよい授業ができた。授業研究に向けて、丁寧に検討する場を持つことができた。夏の聞こえことばの研修会など、聴覚障害に関する研修会がよかったので引き続き欲しいです。聞こえことばの指導講座では、詳しい先生方から話を聞いたり、実際に補聴器に触れたりする中で聴覚障害について研修する機会となりよかった。1 学部研究の進め方に工夫が必要だと思う。2 聴覚障害についての研修機会を今後も確保してほしい。3 教育課程についての研修をしてもよいのでは。4 知的障害部門が開設されますが、手話や視覚支援・聴能等、聴覚障害児の専門性が維持できるように今後さらに職員が意識していかなければならないと思います。</p>	<p>○指導案の検討から時間をかけ、当日は子どもたちの生き生きとした授業が行えた。また、事後研では活発な意見交換が行え、授業改善につながった。</p> <p>○1 学部研究の進め方については、学部長も含めた拡大研修部会で話し合い、各学部を下ろすようにする。</p> <p>○2 研究授業は教師の専門性を高める上で必要である。しかし、学校全体の本来の関係もあり、また、学部のメンバーの少数人数化、固定化で同じ教師が毎年研究授業を行うことも考えられるので、4月の研究の提案時に、その年の本数等提案する。</p>
保健部	<p>心臓蘇生法や救急法ケーススタディの実習を通して、救急体制の確認と見直しを行い、緊急事態に備える。</p> <p>学校給食で活用する野菜の皮むき作業などを通して、食に関する体験活動を推進する。</p>	3.5 3.6	<p>(夏休みのケーススタディについて)消防署から直接アドバイスを頂けて参考になり良かった。救急体制の確認ができて良かったと思う。行うことで実際の動きがイメージしやすかった。分り易く説明してもらっているが毎年して欲しい。教室内に備えておかなければならないものや、人員の役割を再確認できた。毎回勉強になるのでの機会は大切と感じた。少しずつ変化をもたせながら今後も続けてほしい。ケーススタディで動きをシミュレーションできて良かった。今後も救急体制の実習を続けて欲しい。隔年につづ計画を実施できていることはとてもよい事だと考える。今後も続けてほしい。各学部で設定されたケースについて適切なアドバイスをもらうことができて、とても良かった。実際に想定していたことが起こり、やっていたよかった。風邪の予防や生活習慣の改善等、子どもたちにとって良い機会を与えてもらっている。学校給食では旬の食材を大切にされている。中学部が育てた野菜を使ったり、子どもたちがそれぞれ皮むき作業をしたりして食育に関する意識が持てた。皮むき作業の体験は子どもたちにとって印象に残ったようだ。給食では、子どもたちの活動を取り入れ、季節を感じさせられる食材や調理方法でも工夫を感じられます。中学部生徒の栽培した野菜や皮むきなど体験を重視していることが良い。食に親しむ機会となり良かったと思う。1 各トイレにおける消毒液の設置、手洗い洗剤の補充や車いすの点検など日常的な保守管理も気にしてほしい。2 校内の1階面(外線電話や放送)の緊急体制整備も必要ではないでしょうか。</p>	<p>○ケーススタディに関しては、今後は救急救命法と隔年で実施。事例は4例(幼、小、中、寄)内容については</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭がいる場合の想定も入れる(養護教諭がいる場合の救急体制の確認)</li> <li>・養護教諭不在の場合を3例</li> </ul> <p>①養護教諭のみ不在 ②担任も合わせず不在 ③人手が通常より少ない</p> <p>●2 緊急時に備え保健室から外線へ電話がかけられるように整備済。</p>
倉務部	<p>集団生活をとおして、他を思いやる心や協力してたくましく生きる力を育む。</p> <p>将来の自立に向け、個別の生活指導計画を作成し、基本的生活習慣の確立や生活能力の向上をめざした支援を行う。</p>	3.3 3.5	<p>個別の指導計画を綿密に立て指導に役立てることができた。じっくり検討してからの実施で各生に合った充実した生活指導を行えた。倉生が増え、集団生活の中でそれぞれの子どもたちがいろいろなことを学ぶ場となっている。いろいろなアイデアで子どもたちの指導に当たり、よく支援できていると思う。体験倉生も含めた子どもたちで郊外の活動をたくさん計画されていた。自立に向けた寄宿舎の活用は本校の魅力である。小集団であるが友達を意識した生活が送れるよう関わっていると思う。子どもの情報をこまめに共通理解して全員で指導を共通にできるのが倉の良さであると思う。学校と倉の連携も密でこの良い点を今後も継承してほしい。体験入舎性と共有の時間を過ごすことで、一緒に遊んだり準備をしたりして協力し合っている。倉での過ごし方について、いつも細かく伝えていただいたので、学校以外の場での様子を知れてよかった。</p>	<p>○異年齢集団であることの利点を生かし、年長者は小さい子どもへの関わり方、相手への思いやり、手助けする事や学び、小さい子どもは先輩や友達の様子を見て、自ら活動する力を伸ばし、他の人の接し方を経験する場とする。そのような学びができるように支援していく。</p> <p>○個別の生活指導計画を作成するにあたっては、担当だけで作成するのではなく実態把握も含めて事前に何度も話し合い、目標・支援方法の構想を練る。検討を重ね共通理解を図り、統一した丁寧な指導を行う。</p> <p>○よく評価された点は継続して、さらに研修を重ねて指導員全員が教育力を増すよう努める。</p>
支援教育部	<p>地域の特別支援教育のニーズに沿ったセンター的機能の充実を図る。</p> <p>地域の関係機関と連携しながら特別支援教育の推進を支援する。</p>	3.5 3.4	<p>来年度の聴知併置に向けて本校の教育相談体制について豊岡市教委と話し合った。特別支援学校合同研修会では講演会「インクルーシブ教育システムと合理的配慮」について研修を深めることができた。また分科会では4校の交流ができた。地域の聴覚児が本校のわくわく交流会等に参加することで子ども同士交流になり、教師同士は情報交換することができた。地域の関係機関や学校と連携し、支援が必要な子どもの指導や担任にアドバイス、また研修会を開催し情報提供や支援が行われていくと思えます。地域へ幅広く支援を行い研修を設定しセンター的機能の役割を果たしている。センター的機能として地域のニーズに対応した、たくさんの出張をこなしておられると思います。また本校への入り口としての立場で就学相談の充実を期待しています。</p>	<p>○来年度は豊岡市教委との連携・協働をさらに進めていく。</p> <p>○教育相談件数は毎年1500件を超えており、今年度は聴覚相談がさらに増加した。来年度は聴知併置化となるため就学相談も増える見込み。</p>
幼稚部	<p>子ども同士でのやりとりを支援しながら、個々の実態に応じたコミュニケーション手段の獲得を目指す。</p> <p>幼児がいろいろな遊びを通して主体的に活動ができる安全な環境を整える。</p>	3.5 3.5	<p>それぞれ主体的な活動ができています。熱心に取り組んでおられる。いつも遅くまで仕事をされており、活動の準備が急に入念にされ、幼児が楽しく活動できる工夫がされていた。安全に毎日を通うためには、教師の意識はもちろん、子どもの実態の共通理解、教師同士の声の掛け合いなども必要。1 廊下にある滑り台は安全確保が必要であり、子どもたちが自由に遊ぶのが難しかった。</p>	<p>○教師を介さない、子ども同士でのやりとりが増えた。</p> <p>○子どもたちが外で安全に、自由に遊べる環境や道具が必要である。</p> <p>○今後とも教師同士で声をかけ合いながら、チームで子どもたちを見ていく。</p> <p>●1 校庭の道具は点検・整備を年度内に実施する。</p>
小学部	<p>児童が伝えられた内容を理解したり、自分の思いを伝えようとしたりする力を育むため、教師による手話や絵カード等を利用したコミュニケーション手段を改善、工夫する。</p> <p>児童が公共のマナーを身につけたり、人間関係を広げたりするため、校外学習や交流及び共同学習の内容や運用について検討を加える。</p>	3.5 3.4	<p>運動会や集会など全体指導の場で手話を用いる教員が増えた。中筋小との交流では今年ごとに打ち合わせの場を持ったことは良かった。中筋小学校との交流会では、本校の様子をDVDにまとめ児童や職員に鑑賞してもらいしっかりと啓蒙活動することができた。全体授業で主指導になった教師が意識的に手話を付けて話しているのありがたいです。個に応じたコミュニケーション手段について創意工夫を取り組んでいる。行事で公共交通機関を利用するなど、体験を通じて公共のマナーを学習することができた。</p>	<p>○交流や共同学習の場でも主指導者が手話を使って説明することを定着させていく。</p> <p>○手話及び共同学習の場でも主指導者と打合せを綿密に計画し、さらに充実した交流会になるように努める。</p>
中学部	<p>生徒の実態や課題を共通理解し、分かりやすい提示方法を工夫することにより、コミュニケーションの向上を図り、人間関係を広げるよう支援する。</p> <p>ニーズに応じた福祉サービスや進路情報を提供し、諸機関との連携を図って進路指導を進める。</p>	3.5 3.3	<p>個々の実態に応じた取り組みがされており、のびのびと毎日過ごしている様子が感じられてよかった。行事の内容や掲示物からいつも楽しい雰囲気伝わってきます。いつも見せていただいているので、様々な実態の子どもたちが互いに励まし合いながら生活できています。生徒の心がよくつかみ、頑張ってもらえる。地域の高校との交流に知り合えた。個に応じた資料、言葉かけをする中で、授業のやり取りが活発になってきた。教師間の共通理解をする方法が、分かり易い提示方法を中学部全体で考えることができ、とても勉強になった。</p>	<p>○地域の高等学校との交流では、打合せを十分に行い内容の充実を図る。来年度も継続する。</p> <p>○ケース検討会議、教育相談を行った。高等部の進路情報を提供した、さらに最新情報を収集する。</p>
事務部	<p>電気・水道の使用量の縮減に取り組み実施する。</p> <p>接遇に対する意識を高め向上を図る。</p>	3.3	<p>要求に対し早めに対応していただけて良かった。日々電気水道使用量の縮減に取り組んでいる。いつも丁寧にに対応してくださりありがとうございます。デマンドを意識して取り組み始めた。常に電気の使用量について呼びかけられていたので意識できた。1使用量をグラフ化して比較掲示などは職員も意識した。指導に必要な物品をスムーズにそろえてもらって助かります。必要なことにお金をかけられるよう、無駄をしないよう心がけていきたいです。2できるだけ電気が付いたときに電源を消すようにしているが、なかなか職員に浸透してないと感じている。もっと強力に呼びかける必要があると感じている。エアコンの時差スイッチなど電気代が削減しやすい。小ブールの修理、ありがとうございます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1 使用量メータの定期検針等による縮減の取り組みを継続実施する。</li> <li>●2 職員への呼びかけ等により節電、節水の意識の向上及び協力を求める。</li> <li>○今回の学校評価で要望のあった点は、可能なものは年度内に整備を実施する。</li> </ul>
人権教育	<p>夏季休暇中に実施される但馬人権教育研究大会に積極的に参加し、人権問題に対する意識を高め、人権感覚を養う。</p> <p>人権教育訪問指導を通じて、本校の人権教育の流れを再確認し点検する契機とする。</p>	3.2 3.2	<p>夏休みの研修会の参加等、充実した内容だった。但馬人権に参加するだけではなく、日常の問題を取り上げて話し合った(ヒヤリハットのような)。日頃からの意識が大切だと思う。計人教等を通して、人権意識を高めることができました。日々お互いに人権を意識して過ごしていきたいと思っています。1 年々今後の分科会への出席者が減少しているように思う。校内研修と位置付けているのであれば参加の呼びかけが必要である。訪問指導の時間帯でもっと早くしてもらった方が教員も考えられる。人権訪問があり人権教育を再認識できた。具体的な内容で大変勉強になった。他校の取組を知り人権意識を高めることができた。2 人権に対する感覚を常に醸成できるような取組も必要だと思える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1 但馬人権については、引き続き全員参加の方向でやっっていく。午前中の全体会や講演会だけ参加して帰るのではなく、午後の各分科会にも参加して、いろいろな人権に対する意見を聞くことも大事だと思われる。但馬人権の日程は、早くから決まっているので、職員への周知徹底をはかることが大切だと思われる。</li> <li>●2 人権教育の講演会を、夏季休暇中に計画すれば、寄宿舎の先生も含めて大勢参加できるのではないか</li> </ul>
授業検討会	<p>外部人材等の参画による授業検討会を経て、学年・部で助言内容の共有し、授業の改善に取り組む契機とする。</p> <p>生徒の勤労意欲を持たせ、将来に勤労先で求められる職務内容の基礎を培うように、作業学習等の実践的な研究を推進する。</p>	3.2 3.2	<p>中学部では作業学習に取り組み、外部人材の活用も昨年より工夫して取り組めた、たじま聴覚障害者センターに掃除に行くなど新しい取り組みも実施した。仕事の学習を通して言葉の受け応え方、マナー、態度など知ることができた。中学部で行っている作業が子どもたちの社会への参画という広い意味で捉えたいことが研修会等で確認できたことが良かった。就労のみを目指すものではないという捉え方をよく取り組むやすい。授業検討会で抑えた視点を今後の教育課程に生かすことを持てることができた。他校の情報を知る良い機会となった。本事業が本校の生徒の実態に応じた取り組みではないと感じた。本来中学部で取り組んでいる作業学習を充実させる方が今後にも生かせると思う。キャリア教育に関する考え方が分りよかったです。1 トータルハーモニーの武田先生からのアドバイスはとても参考になり、今後も参画をお願いしたい。2 外部講師の開拓を通じて様々な外部機関とつながるきっかけとしたい。</p>	<p>○目標設定として実践的な仕事について技術的な向上を図ることに重点があったが、障害のある子どもが社会で生活するために手立てや方法を身に付ける目標に替えて学習を進める。</p> <p>●1 来年度も武田先生に継続指導をお願いする方向で検討する。</p> <p>●2 外部講師をいろいろな機関に依頼しながら、教職員の視野を広げ、本校のキャリア教育を確立していく。</p>

**学校評議員様の助言** ①日々の教育活動、大変ご苦労様です。教育相談件数が1500件を超えていることにびっくりしました。来年度からは聴知併置化と聞いております。今後さらに増加が予想されます。教職員の健康に留意されますよう。区としても協力できることがあればご一報ください。②各分野において従来の取組に加え、新たな目標を掲げられ、それに対しての自己評価をきちんとされている点に感心いたしました。ニコニコ祭りのように外部の者が参加する行事は何かと苦労が多いこと存じます。学校をよく知る機会となっており、予算削減でなくなるのであれば残念なことと思います。ぜひ続けていただきたいと思います。③子どもたちの育ちを支援する様々な取り組みがきめ細やかに行われていると思います。併置化にあっても、地域の特別支援教育のセンター的役割を大いに発揮されると思います。④個々をよく見てくださって、いろいろな体験ができてよいと思います。⑤県下での学区制導入について、H28年4月入学者について経過措置が取られることになったが、スクールバス、体制作り等の準備状況は如何か？。手話通訳のあり方について聴覚障害者としての考え方と、教職員の考え方が違うように見受けける。共同学習の場を設けてはどうか？⑥交流を深めることは、いいこと、一番大切なこと、もっともっと続けていって欲しいと思います。学校のHPに、一年間の行事予定が掲載されていてもらえると便利かと思います。

# 学校評価アンケート【保護者】(集計結果)

(1)実施時期 平成27年12月21日～平成28年1月15日

(2)回答数 27

※ 回答率 100%

(3)評価 ④:よくあてはまる(満足) ③:ややあてはまる(やや満足)  
②:あまりあてはまらない(やや不満) ①:あてはまらない(不満)(参考)  
昨年

	内 容	平均	平均
子どもへの指導について	1 子どもは、楽しく学校に通っている。	3.8	3.8
	2 学校行事に、子どもは楽しく参加している。	3.8	3.7
	3 子どもの健康・安全面について、よく配慮されている。	3.5	3.5
	4 子どものコミュニケーション能力の向上を目指した指導がなされている。	3.2	3.2
	5 自立に向けた基本的な生活習慣が身に付くよう、指導がなされている。	3.1	3.3
	6 体験活動を通して、確かな生きる力を育てている。	3.1	3.3
	7 先生は熱意を持って取り組んでおり、授業は充実している。	3.3	3.3
	8 学校は、子どもの学習状況や活動などを適切に評価している。	3.3	3.4
	9 学校間交流などを通して地域とのふれあいを育み、社会参加の力を培っている。	3.0	3.2
保護者との意思疎通について	10 連絡帳等で家庭との連絡を密にし、積極的に意思の疎通を図っている。	3.5	3.5
	11 子どもの心身の健康や障害の状況などについて、気軽に相談できる。	3.4	3.6
	12 送迎時や懇談、電話連絡などにおける対応は適切である。	3.4	3.6
	13 学習のねらいや到達した段階を保護者に知らせるなど、成果と課題を明確にしている。	3.2	3.3
	14 懇談会等で保護者の願いを聞き、日々の教育活動に生かしている。	3.2	3.3
	15 保護者との十分な話し合いにより「個別の教育支援計画」を作成している。	3.5	3.3
	16 子どもの進路など、長期的な目標について情報が得られている。	3.0	3.0
学校教育全般	17 オープンスクールや学校行事などを通して“開かれた学校づくり”に取り組んでいる。	2.9	2.7
	18 ホームページやとよろう通信、掲示板等を活用して情報を発信し、学校への理解を深めている。	2.8	3.0
	19 授業や行事など、保護者参観の時期、内容、回数等は適切である。	2.9	2.9
	20 学校の施設・設備や環境面などは整備されている。	2.7	2.7
	平均値	3.23	3.27
〈ご要望・ご提言等自由記述欄〉			
個別の学習ももう少し増やしていただきたいと思います。			